

同時資料提供

大阪市政記者クラブ
大阪科学・大学記者クラブ
大阪教育記者クラブ

平成26年3月11日
大阪市立自然史博物館
電話：06-6697-6222

ミニ展示 「植物標本のタネは地域の自然を救う!？」 ～時を越えて発芽する植物標本のタネ～のお知らせ

大阪市立自然史博物館の標本庫には、都市化などによって現在では失われてしまった植物の標本を数多く保管しています。今回、これらの植物標本に残されたタネ（種子）に注目し、博物館標本を用いた新しい生物保全の可能性について、2014年3月15日（土）から、植物標本と標本から撒きだしたタネ、実際に発芽した芽生え（生品）や写真などをミニ展示を通して紹介します。

現在、日本に生育するおよそ5300種の植物のうち、4分の1以上の種が絶滅を危惧される状況になっています。これらの絶滅危惧植物の中には、ある地域で絶滅してしまったものや、さらに生育環境までなくなってしまったものも含まれています。

博物館の標本庫には100年以上前から現在に至るまで、このような絶滅危惧植物の標本を含む、数多くの植物標本が収められています。標本にはタネが残されているものも数多くあり、その中には、休眠状態で今も生きているタネがあることが分かってきました。これらを収集し、撒きだすことによって、ある地域で絶滅してしまった植物や、野生集団の遺伝的多様性を回復させることができるかもしれません。この展示では、こうした博物館から生まれた最新の研究成果をご紹介します。

また、初日の3月15日（土）には、このミニ展示を監修した新潟大学教育学部 植物学教室の志賀隆准教授によるオープンセミナーを開催します。ぜひこの機会に、博物館が所蔵している標本を用いた取り組みについて、また、このミニ展示及びオープンセミナーを多くの市民の皆様に広報していただきますようお願い申し上げます。

※今回の企画展には JSPS 科研費 23701024 の助成を受け行った研究成果の一部を使用しています。



会期：2014年3月15日（土）～5月31日（土）

休館日：月曜日（3月24・31日、4月7・28日、5月5日は開館）、5月7日（水）

会場：大阪市立自然史博物館 本館2階 第5展示室出口

観覧料：大人300円、高大生200円

※中学生以下、障がい者手帳等持参者（介護者1名含む）、大阪市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料。

主催：大阪市立自然史博物館

監修：新潟大学教育学部 植物学教室

自然史オープンセミナー（3月）

「時を越えて発芽する博物館標本のタネ・標本種子を用いた絶滅植物の復元」

今回のミニ展示の内容について、監修者である新潟大学教育学部 植物学教室の志賀隆准教授より詳しい説明をお話いただきます。

日時：3月15日（土）午後1時～2時30分

場所：自然史博物館 集会室

対象：どなたでも参加できます

参加費：無料。

ただし自然史博物館本館への入館料が必要です(大人300円、高大生200円)。

※中学生以下、障がい者手帳等持参者（介護者1名含む）、大阪市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料。

申込み：不要、直接集合場所・会場へお越しください。

講師：志賀隆氏（新潟大学教育学部 植物学教室）

所在地 〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-23

TEL 06-6697-6221、FAX 06-6697-6225

ホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

地下鉄御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m

JR 阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1000m

画像

画像1：種子の生存が確認された最も古い標本（ヒメヒゴタイ，大阪府産1925年採集）。ヒメヒゴタイは大阪府では既に絶滅している。



画像2：奈良県において2007年採集された標本より発芽したホシクサ。



画像は広報用写真としてご利用いただけます。

必要な際は、下記へお知らせください。

広報担当 長縄 naganawa@ocmo.jp